


CASBEE[®]-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2020年版 使用評価ソフト: CASBEE-WO_2020(v1.1)

1-1 建物概要				1-2 評価パターン	
建物名称	博多区新庁舎	階数	地上10F	評価対象	パターン3
建設地	福岡県福岡市	構造	S造	1-3 外観	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,040 人		
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所、保健所	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価		
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2021年3月22日		
敷地面積	2,480 m ²	作成者	石村 佳子		
建築面積	1,734 m ²	確認日	2021年3月22日		
延床面積	15,224 m ²	確認者	石村 佳子		

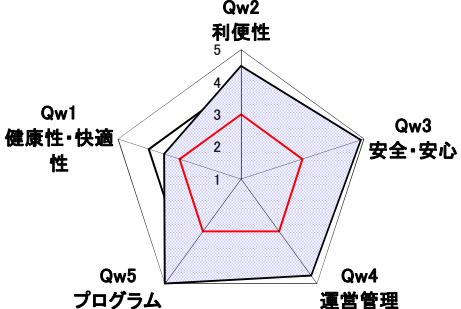
2-1 総合評価

Rank: S 77.6 /100



S ランク: ★★★★★ > 75
 A ランク: ★★★★☆ ≧ 65
 B+ランク: ★★★☆☆ ≧ 50
 B-ランク: ★★☆☆☆ ≧ 40
 C ランク: ★☆☆☆☆ < 40

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



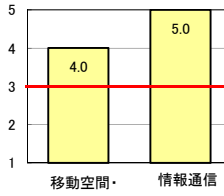
2-3 中項目の評価(バーチャート)

基本性能

Qw1 健康性・快適性 Score= 3.5



Qw2 利便性 Score= 4.5



Qw3 安全・安心 Score= 4.9



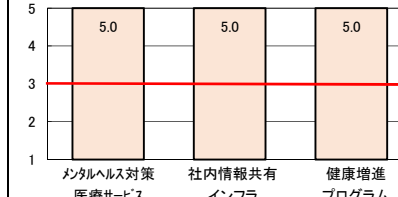
運用管理

Qw4 運営管理 Score 4.7

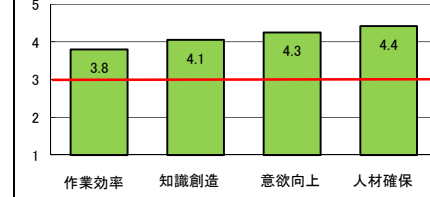


プログラム

Qw5 プログラム Score= 5.0



参考: 知的生産性の視点に基づいた評価



3 設計上の配慮事項

総合
 福岡市博多区に計画された新庁舎である。
 防災拠点としての十分なBCP計画や高い耐震性能などで安全性を確保。
 またZEBを実現する高い省エネ性能を持ち環境へ配慮しながらも、職員の働きやすさや健康性にも配慮した計画で質の高い行政サービスを実現する庁舎となっている。

Qw1 健康性・快適性 ・ 知的生産性向上に配慮し多様な設えを計画している。 ・ 執務者の作業環境に配慮した光環境を計画している。 ・ ポスター掲示で階段使用を促進する取り組みを実施。	Qw2 利便性 ・ EV利用の快適性を高める計画としている。 ・ 執務室内打合せスペースの計画、会議室予約システムによる運用で利便性向上を図っている。	Qw3 安全・安心 ・ 建築基準法の1.5倍以上の耐震性能を有している。 ・ 災害時、共用部専有部に電力供給が可能な計画。 ・ 指透過認証装置の採用等でセキュリティに配慮。
Qw4 運営管理 ・ 中長期保全計画があり、実施体制が確立されている。 ・ BCPを作成、災害用BEMSの導入等を計画している。 ・ AEDを十分な数と適切な配置で計画している。	Qw5 プログラム ・ 産業医のサポート等メンタルヘルス対策を実施。 ・ 情報セキュリティ管理規定で社内インフラを整備。 ・ 健康セミナーの開催等で健康増進に配慮している。	その他 -

CASBEE-ウェルネスオフィス2020年版

バージョン CASBEE-WO_2020(v1.1)

博多区新庁舎

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート			
配慮項目	環境配慮の概要記入欄		評価点
総合評価			4.1
Qw1 健康性・快適性			3.5
1 空間・内装			3.9
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	間仕切りの設置により1スパン程度の空間に分離可能	4.0
	1.1.2 荷重のゆとり		3.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	空調設備が同一フロア内でグループ単位に分けて運用可能	4.0
1.2 知的生産性を高めるワークスペース			5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画	専有部分におけるコンセプトを内装計画へ反映	4.0
	1.3.2 共用部の内装計画	共用部の内装材に統一感をもたせている	5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性		3.0
	1.4.2 OA機器等の充実度		3.0
1.5 広さ			3.0
1.6 外観デザイン			5.0
2 音環境			3.5
2.1 室内騒音レベル			3.0
2.2 吸音			4.0
3 光・視環境			3.2
3.1 自然光の導入			1.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		3.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策	G1、G0型の器具を採用	5.0
3.3 照度			4.0
4 熱・空気環境			3.3
4.1 空調方式及び個別制御性			3.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温		1.0
	4.2.2 外皮性能	適切なガラス・断熱仕様に配慮	4.8
4.3 湿度制御			3.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量	一人あたりの換気量35m ³ /以上	5.0
	4.4.2 自然換気性能		3.0
5 リフレッシュ			4.0
5.1 オフィスからの眺望			4.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり			3.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			4.0
5.4 トイレの充足性・機能性			4.0
5.5 給排水設備の設置自由度			3.0
5.6 リフレッシュスペース			5.0
5.7 食事のための空間			4.0
5.8 分煙対応、禁煙対応			5.0
6 運動			3.5
6.1 運動促進・支援機能			4.0
6.2 階段の位置・アクセス表示			3.0
Qw2 利便性			4.5
1 移動空間・コミュニケーション			4.0
1.1 動線における出会いの場の創出			3.0
1.2 EV利用の快適性			5.0
1.3 バリアフリー法への対応			4.0
1.4 打ち合わせスペース			4.0
2 情報通信			5.0
2.1 高度情報通信インフラ			5.0

Qw3 安全・安心性			4.9
1 災害対応			4.7
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	建築基準法に定められた1.5倍以上の耐震性	5.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能	免震装置を導入	5.0
	1.1.3 設備の信頼性	非常用発電設備等を備えている	4.0
1.2 災害時エネルギー供給		災害時、共用部だけでなく専有部に対しても一部の電力供給が可能	5.0
2 有害物質対策			5.0
2.1 化学汚染物質		ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない建材採用	5.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材種別4つある	5.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応		-
	2.3.3 土壌汚染等対応		-
3 水質安全性			5.0
3.1 水質安全性		中央監視による警報措置等で配慮	5.0
4 セキュリティ			5.0
4.1 セキュリティ設備		指透過認証装置の採用等で配慮	5.0
Qw4 運営管理			4.7
1 維持管理計画			4.2
1.1 維持管理に配慮した設計		ホコリの溜まりにくい設計や物を置かない設計等で配慮	4.0
1.2 維持管理用機能の確保			3.0
1.3 維持保全計画		維持保全計画を定期的に更新する体制が確立されている	5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書		-
	1.4.2 維持管理レベル		-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		中長期保全計画があり、実施体制が確立されている	5.0
2 満足度調査			5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		満足度調査を定期的に実施し、改善策に活用している	5.0
3 災害時対応			5.0
3.1 BCPの有無		地震計モニタリングシステム、災害用BEMSの導入	5.0
3.2 消防訓練の実施		訓練への参加人数を増加させるための取組を実施	5.0
3.3 AEDの設置		十分な数と配置となっており、施設利用者への教育活動も実施	5.0
Qw5 プログラム			5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		産業医のサポート等を実施	5.0
2 社内情報共有インフラ		情報セキュリティ管理に関する規定を定めている	5.0
3 健康増進プログラム		健康セミナーの開催等複数の取組みで配慮している	5.0